

◆クラブテーマ◆

「八重山の未来へ奉仕しよう」

会長：黒島 剛 副会長：大浜 勇人 幹事：吉田 貴紀 副幹事：松田 新一郎

公共イメージ委員長：山下 暢 SAA・出席委員長：玉城 カ

クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくくる(心)

今月のロータリーレート 1\$¥130

島素材の産物

～島の素材を活かす知恵と技～

【ヤラブ】

台風や塩害に強く、防風・防潮林として植えられるテリハボク。石垣空港からのヤラブ並木は誰もが知るところです。観賞用にも栽培されるほか、硬く強い材質から家屋や丸木舟とその道具に用いられてきました。小笠原諸島では「タマナ」と呼ばれ、種子から採れる「タマスオイル」は外用薬や化粧品の原料にも使われます。石垣島でもタマスオイルの効能に注目が集まりつつありますが、街路樹から落下する種子は歩道を汚す厄介者のようです。



[資料協力:なうひあ]



SERVE TO  
CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊にするために

2021-22年度RIテーマ

RI会長：シェカール・メータ

地区ガバナー：若林 英博 氏

「世界で、日本で、地域で良いことをしよう」

☆大きな目標と5項目☆

1. 新型コロナウイルスで困っている人々を支援しよう
2. ポリオ根絶に向けて頑張ろう
3. 元気なクラブになろう
4. 会員増強・クラブ拡大をする覚悟をもとう
5. ロータリーの公共イメージをアップさせよう

5月のプログラム

5/11(水)ゲスト卓話:黒島直人様(八重山高校 校長)

5/18(水)ゲスト卓話

例会日 水曜日 12:30~13:30  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311  
TEL/FAX (0980) 83-2917  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

☆総会員数:48名 出席義務会員数:47名  
 ☆出席人数:28名 欠席人数:19名 出席率:59.57%

◀司会進行:玉城 力▶

☆ロータリーソング:奉仕の理想 四つのテスト  
 ☆ソングリーダー:櫻井 浩一  
 ☆ゲスト:土城 勝彦 様(たまよせ動物病院 院長)  
 ☆メイクアップ:遠藤 正夫 大城 文博 宮良 幸男

## 会長挨拶:黒島 剛



先週、浦添 RC の 55 周年記念式典に吉田幹事と二人で参加してまいりました。その時に、ロータリーのマークが入ったマスクを記念品としていただきました。沖縄県もコロナが増えているので、時間も 1 時間半に短縮されて出席者の人数も会長・幹事だけで 70 名ほどの参加で 55 周年を祝って来ました。その時にコザ RC の会長とかと話をしましたが、石垣 RC の会員が 50 名突破しているということが少しずつ噂になってきているようです。他のクラブに刺激を与えているのではと思っています。今日は、土城先生のカムリワシの卓話です。私もカメラマンとして、西表島や於茂登山とかでカムリワシの撮影をしています。特に石垣島はカムリワシの撮影をするのがだんだん難しくなっています。いろんな方面で自然に生きる動物たちのお話が聞けたらいいなと思っています。今日は、沢山お話をさせて頂けるということで早めの進行です。土城先生、申し訳ないですが、食事をしながら進めさせて頂くことになりましたが、どうぞよろしくお願い致します。

### ◆◆◆幹事報告:吉田 貴紀◆◆◆

先週のガバナー訪問卓話とオープン例会、本当にありがとうございました。5/31 の地区大会ですが、現在の参加人数が 17 名で小林さんの娘さんも参加されるということで、合計 18 名となっております。この日、岡崎南 RC のメンバーが 3 名来島され、池城貞光さんのお墓にお参りをしたいということをお聞かしております。ただ地区大会がある旨はお伝えしております。地区大会へ参加されない方にアテンドをお願いするかもしれません。その際には追って連絡させていただきますので、よろしくお願い致します。

### ◆ゲスト卓話:土城 勝彦 様◆

#### テーマ:カムリワシの未来を守るために

私は、石垣島生まれではないのですが、石垣島に来て 18 年目になります。ペットの診療をしています。もう一つに、他の島の野生動物の救護ドクターというのを長くやらせて頂いております。カムリワシがちょうど今ニュースになってたくさん出ていますけれども、かなり危機的な状況になっているのを皆さんにお伝えしたいと思い、今日はこちらに参りました。よろしくお願い致します。「カムリワシの未来を守るために」というタイトルでお話をさせていただきます。内容的には・カムリワシの危機的な状況について・カムリワシのあまり知られていない特徴・性質について・野生動物

救護事業について・今後の対策や方針・皆様へのお願い、という形をお話させていただきます。かなり気合いを入れて作りすぎたので量が多いのですが駆け足でやっていきます。こういう場に来るとどうしても環境活動家みたいな誤解をされがちなんです。全くそういった発想ではなくて、むしろカムリワシが置かれている現状を皆様にお伝えさせて頂きたいというのを第一に来ております。カムリワシの現状についてですが、今何が起きているかというと、単純にいうと近年、カムリワシの交通事故が凄く増えているよという事なんです。それも今年に入ってもかなり増えているんですけど、ここ数年で重症例が凄く多いんですね。申し訳ないのですが、僕たちが携わる暇もなく常に亡くなっているケースもかなりあります。うちでも管理しているんですが、羽が折れていたり、手術しても飛べなくなるケースもありますので、そういう場合は野生復帰と言って自然に帰すことも出来なくなることがあります。現状、あまり私も言葉は好きじゃないですけど、絶滅のリスクが極めて高い状況になっているかなと考えています。2022 年 3 月 10 日の記事ですが、これはもうびっくりして僕もパニックになったんですが、なんと 1 日で 3 件の交通事故が起きました。2 件はすでに来る前に亡くなっていたんですね。1 件は比較的軽症の事故だったので、その後間もなく放鳥して自然には帰せただけなんですけれども、過去に 1 日で 3 件のカムリワシの事故が起こるといふ事例はまったく経験をしたことがなくて、年間だいたい平均して 7, 8 羽ぐらい救護されます。そのなかで、今年に関してはすでに 2 ヶ月半でそれを超えてしまっているような状況になります。環境省さんと市役所、教育委員会が担当になっているんですけど、かなり危機的な状況だよということでカムリワシの「非常事態宣言」というのを出して頂きました。今お手元にある資料の中にも入っていますが、どこで事故が起こったかというのも具体的なことも書いてあって、とにかく気をつけて運転してくださいというようなお話になっています。ところがわずか 10 日後ぐらいにまた、1 日 2 件の事故が発生しました。1 件目は何とか僕のところに届いたんですけど、もう 1 件はかなり重症で間もなく亡くなってしまいました。1 件はうちに居て管理していますけれど、骨折が酷くて手術はしたものの恐らく飛べる可能性は少ないかなと思います。実はこの日、うちに居た最後のカムリワシが放鳥されたんですね。なのでやっと 0 になったその日の朝に 2 件起こってしまったという、凄く状況がここまでのところ続いています。今年の昨日まで救護されたカムリワシですが、全部で 11 羽、去年の平均は超えてしまっていて、11 件中 8 件が交通事故です。死亡が 11 件中 6 件、4 件は自然に返せて 1 件はうちに管理している途中になりますが、これは恐らく自然には帰せない可能性が高いと思っています。昨日の時点で、野生復帰が不可能な 1 羽と、僕たちが手術したあとに飛べるか、ご飯が食べられるか、そのようなチェックして頂くところが、こちらもボランティアですが、石垣やいま村さんのなかであって、リハビリ用のケージがあります。その中に去年の 11 月と 12 月に救護されて手術したんですが、恐らく自然に帰せなさそうなのが 2 羽います。なので自然の中でないところに 3 羽いる状況です。私の病院も非常に狭いので、やいま村さんの 2 つのケージで手いっぱいなんです。なので空いているところがない状況です。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、

やいま村さんにもう 1 台ケージを作って頂こうと頑張っていて、クラウドファディングみたいなのを、今月に入ってから始めて頂いています。間もなく動いてくれるかなという段階まできていますけれども、失礼ですがご協力頂けると非常に助かります。カンムリワシの事故には共通する点がいくつかありまして、これからの次期、あまり事故はないですが冬場が多いです。事故なので路上でひかされているケースが多く、活動時間とも関連しますが、比較的朝方が多いです。あとはここで起こるよというホットスポットって呼んでいるんですけど、事故が多い場所がいくつかに限られています。カンムリワシという種類の鳥は、東南アジアにはたくさん居るんですね。以外とご存じない方が多いんですけど、そのなかでかなり特徴が違うため、亜種に分類されています。国内では、西表島と石垣島にしかいないです。このカンムリワシに関しては、いろいろ勉強したんですが、特に自然が豊かで限られた島というところを住处にしているもので、八重山のカンムリワシは、もの凄く特徴が他のカンムリワシとは違います。どのくらい絶滅するリスクがあるのかというお話ですが、環境省が設けているリスクランキングというデータがありますが、その中の 1A 類という一番上に分類されています。ここより上は絶滅してしまったか、自然にはもういないかという分類になるので、断トツ 1 位のほうに分類されています。同ランクですと、有名なのはトキとかコウノトリ、ツシマヤマネコで沖縄の中では、ヤンバルクイナとかイリオモテヤマネコとかが同じ 1A 類に分類されています。島内にはおそらく 100 羽いるかなというぐらいのもの凄く少ない数です。カンムリワシを語る上で、島嶼生物学という考え方が重要になってきます。比較的、限られた島の上で生きている動物というのは、そこで生き残るための工夫をして進化していくんですね。身体の大きさもかなり小さいです。これは、少ない栄養でも生きていけるようにという進化だと言われています。次世代の数もどんどん増えてしまうと争うようになってしまうので、そういうような事がないようにかなり少なく設定されています。食べ物もエリア独特のところに変更しているケースが多いですね。活動に関しては、比較的午前中だけ動いていることも多くて、最低限動くことにして消耗を控えている、なので限られた資源を有効活用するような進化体型にとっているのではないかなということです。八重山のカンムリワシはワシのグループのなかではかなり小さい物に入ります。僕たちが扱っている上でも肉食の鳥のなかでも非常に穏やかで臆病です。攻撃性が非常に低いです。カンムリワシの名前の由来は、威嚇するときに頭の毛をカンムリのように立てて威嚇するんですけど、そもそも威嚇するということはかなり怖がっているということなので、こういう行動をすること事態が珍しいんですね。また番になると一生添い遂げます。1 年に 1 個しか卵を産まないないんですね。このサイズの鳥で 1 年に 1 個しか卵を産まないというのは、普通あり得ないんですね。そして幼鳥の生存率が非常に低いと言われていて、おそらく 3 割程度と言われていています。せつかく生んだ 1 個の卵を一生懸命育てるんですけど、そのうちの 70%は亡くなってしまいます。独り立ちのあと、繁殖に対応できる年齢は比較的高くて 5 年経たないと大人にならないんです。これも他の鳥に比べて遅いです。カンムリワシの生活ライフスタイルというのはそんなに広くないと言われていています。基本的には森の中の木のなかに住ん

でいて、ご飯は田んぼのなかにいる蛙なので、湿地が食堂みたいなイメージです。電柱の上から見下ろして餌を探します。爪とか嘴くちばしとかの力は弱いんですね。僕たちが診療に当たって傷をつけられるということはないんですね。活動は諸説ありますが午前中が多いと言われていています。冬場は蛙を主食にしているので蛙自体が居なくなりますので餌が少なくなります。何を食べているかという主にはバッタとかの虫類を食べているんです。同時に 11 月くらいから雛が独り立ちするので、この時期にご飯がないというのが、正に一番の原因になるわけですけど、結局は路上でひかされている他の動物の死体とかを食べに行ってしまうというのが非常に多いですね。カンムリワシというのは、八重山スタイルを身につけた特殊なワシといえるんですね。分かりやすく言うと、無駄を少なくして、増えたり減ったりしないようなギリギリの生きる方法を選んでいるような、その結果、この地域でしか生きられないような特化した「超省エネ型」のワシに見えます。出来る限り争わないで、競わないで、無駄をしないような生活スタイルで生きているのは間違いなさそうです。そういう生き方をしているため、事故とかの予想外の負荷に対する耐久力が極めて低いです。変化していく環境の適応力は、いろんな動物のなかでもかなり低そうです。1 年に 1 個しか卵を産まないで、いきなり 3 個 4 個産むなんてことは無理なんですね。急に増えられないような状況というのも間違いなく出来てしまっています。おそらくこのペースで事故が起こって、このペースで進んでいってしまうと、数はどんどん減っていくと思います。100 羽が正確な数字かどうかは分かりませんが、一つの島にその生物が 100 しかいないのはとんでもないことなんですね。カンムリワシの生存を脅かしている諸問題としては、断トツ 1 位は交通事故です。直接の死因として一番の問題視しています。それと生活場所が無くなっています。「森と湿地」のペアがないと生きていけないので、そういう場所が減っていくにつれて生きていけなくなっていくんですね。それと競合外来種といって、綺麗なんですけどインド孔雀はもの凄く凶暴で強い鳥なので、カンムリワシのがたいでは全然かなわないんですね。もちろん喧嘩することはないんですけど、食事に関しては圧倒的に強いので、そういう意味で食事不足みたいなこともかなり考えられます。その二つによって事故が起こるみたいなそういう負のループがあると考えられています。もう一つの側面として、島の歴史・文化的な存在になっているのは間違いのないと思います。民謡・舞踊・織物等の中にその姿が描かれています。小さなお子さんたちにもよく聞きますが、小学校の校庭の木の上や、道路わきの電柱に留まっている、生活の中にあたり前に存在するのは、奇跡的なことなんだと僕は思っています。希少種が日常の中に存在して、かつ文化の一側面を担っているというのは、世界的に見てもかなり珍しく、とても貴重な事例なんです。あまりにも普通にいるので、皆さんが普通にいるものだと勘違いされているケースが非常に多いです。とても貴重な鳥で、絶滅に瀕しているという認識をほとんどされていないと思います。そしてカンムリワシによって受け継がれてきた、歴史や文化も危機的な状況に陥っているのではないかなと思っています。ここからは僕たちの普段やっている事についてお話させて下さい。カンムリワシの救護事業という名前は書いてありますが、具体的な事業ではな

いんですね。主に環境省の自然保護官という方が島の中にもいらっやあって、その方達が管理して頂いていますが、その方達のもとで僕たちが活動しているだけで、実際は事業費とかがあるわけでもなくて、いわゆるボランティア的な、あまりこの言葉は好きではないんですけど、ただやっているだけなんです。まず現場で見つけると電話が何処かにかかってくる。搬送には行けないので、市でいうと環境課の方や教育委員会の方達が担当になりますので、病院まで運んで来ます。僕たちが治療して、ある程度外に帰せる見込みが来ると、リハビリとって飛び方のチェックとかは、石垣やいま村さんの担当の方がやったださる。最後の放鳥は、僕たちは行けないので、関係者の方々や、場合によってはマスコミの方にお話をして、取りに来て頂いたりしてやっています。僕たちの救護事業というものの良い点をまずお話をすると、連携がもの凄いいです。救護→搬送→治療→リハビリ→放鳥の連携はとても良いですね。あと関係者同士が日常的に顔を合わせる機会が多く、気心が知れている仲間の集まりなので、やりくりがとても上手いっています。あとは関係各所の方が本当に熱心にやっけて頂いておられます。そもそも事業ではないので、問題点として専任の人がいない、人手や施設も常に不足している状況。僕も含めてですが、それが全ての仕事になっていなくて、環境課の方とか市役所の方もそうなんです。大勢の方が関わることが出来ないで、一人当たり、一カ所あたりの負担が凄く大きくなってしまっています。特殊な知識と技術が必要となりますので、すぐに業務に携わることが難しいです。カンムリワシは猛禽類の中でもかなり特殊で繊細なため扱いも難しく、捕獲性筋疾患とって、触っただけでも亡くなることもあり、治療だけでなく、管理や飼育も難しいです。当院も含め、後継者育成が全く行われなくて、一人でも欠員が出ると事業自体が難しくなります。現状のままでは、近い将来事業が立ち行かなくなる状況です。全体像としましては、カンムリワシ側の危機的な状況と、救護事業自

体も危機的な状況になってしまっていますので、おそらく残された時間はそんなにないと思います。対策や提案として、現状では、すでに危機的な状況にあります。開発をやめろ！自然を壊すな！では、最早間に合わない段階まで来ています。今すぐにでもできる方法を考える必要があると思います。カンムリワシを中心とした、野生動物を保護・管理・研究する施設の設置。官民合同での運営や希少種等の研究機関も兼ね、専任のスタッフの配置等。大学等との連携や、地元・他地域の子供たちの教育の場等。救護施設として稼働させるためには、給与等の体制の設備、安全の確保→感染症の対策、逸走防止等、終生飼育動物の展示、関係省庁や研究機関との連携が必要となってくるので、非常に難しい問題ではあります。開発と自然保護の融合。開発と自然保護をセットにするルール作り。開発計画を査定し、その影響に匹敵する自然保護を行う＝開発に先んじて計画を査定、それに応じた自然保護を行う約束を締結し、二つを同時進行する。このシステムがうまく起動すれば、・開発をする→同時に自然保護も進むし、開発が行われない→自然が維持される、どちらにしろ自然にはプラスの効果。自然保護の財源。開発を行う方たちに、開発の度合いに応じて、自然保護にご協力いただく方がいいかなと勝手に考えています。【環境への影響の査定】→上記の保護管理・研究施設で行う。【開発を行う方への利点】→開発に応じた自然保護を行っていることを、公的に発表するとか、貢献の度合いにより表彰などのアピールできるような事があれば動きやすくなるのかなと思います。最後に、開発推進派 VS 自然保護派→この構図は終わりにしたい。人間同士が対立していると、割を食うのは、おそらく動物です。カンムリワシは本当に危ない状況なのは間違いないです。ヒトとヒトが手を繋ぎ、知恵を持って何らかの対策を練っていく必要が、まさに今あるのかなというふうに考えています。ご清聴いただき、ありがとうございました。皆様の、お力とお知恵を、動物たちのためには是非お貸しください。

～ 例会風景 ～



土城 勝彦 様 貴重なお話ありがとうございました。またのご来会お待ちしております。

本日のニコニコ：☆黒島剛氏：土城様、今日はありがとうございました。☆上勢頭保氏：土城先生の卓話に感謝。カンムリワシもふくめ保護活動に感謝申し上げます。☆前木繁孝氏：土城先生 とても為になりました。ありがとうございました。☆大浜勇人氏：土城様 卓話ありがとうございました。☆宮城早人氏：土城さん、卓話ありがとうございました。☆今西教之氏：土城先生、いつも「あづき」「れお」がお世話になりありがとうございます。本日の卓話よろしくお願ひ致します。☆新川正人氏：おかげ様で、石垣にて2度目のバースデーケーキをいただきました。感謝

◆BOX ¥7,000(累計 ¥281,450) ◆コイン ¥2,925(累計 ¥60,456) 合計 ¥341,906



仁開一夫氏 3日(火) 宮城隆氏 6日(金) 漢那憲隆氏 14日(土) 大浜勇人氏 15日(日)

